

(別紙)

# エリンギとヤマブシタケの腸管細胞に対する抗炎症作用

ホクトきのこ総合研究所での研究の結果、エリンギとヤマブシタケが、腸の炎症性疾患を予防する可能性を示す研究結果が得られました。

## 腸管細胞の動きとエリンギとヤマブシタケの作用

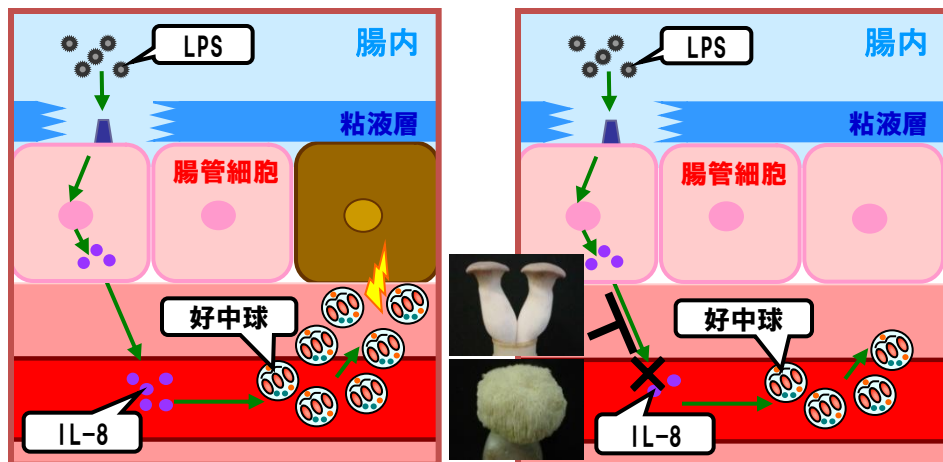


図1.

腸の粘液層が破綻してLPSが過剰に作用すると、腸管細胞から炎症性サイトカインであるインターロイキン8(以下IL-8)が血中に分泌されます。IL-8は好中球などの免疫細胞を腸管に呼び寄せ、過剰に集まった好中球が腸管細胞を傷害してしまうことで炎症が引き起こされます(左図)。エリンギおよびヤマブシタケの抽出成分は、こうしたIL-8分泌を抑制することがわかりました(右図)。

## 実験方法

各きのこのエタノール抽出成分を実験に使用しました。ヒト由来腸管細胞株(HT-29)に各抽出成分を加えて30分培養後、LPS\*刺激を行いました。培養24時間後に培養液中のIL-8分泌量を測定しました。

\* LPS(リポポリサッカライド)は大腸菌の細胞壁成分で、免疫応答作用を示す物質です。



## 実験結果

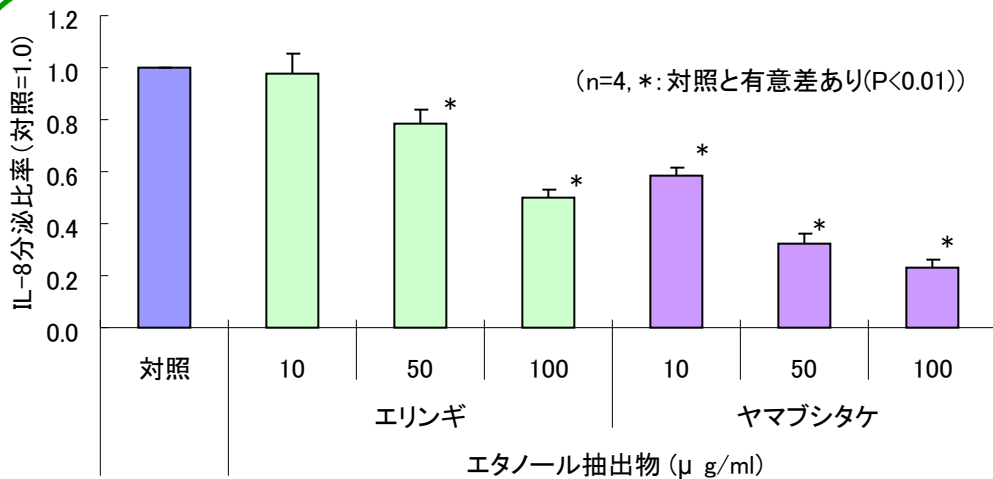


図2.

エリンギとヤマブシタケのエタノール抽出物を予め与えたHT-29細胞では、LPS刺激後のIL-8分泌が抽出物濃度に比例して有意に抑制されました。また、IL-8の遺伝子発現も有意に抑制されました。

図2. LPS刺激後のIL-8分泌

以上の結果から、エリンギとヤマブシタケは腸の炎症性疾患を予防する効果が期待できると考えられました。